

## 音楽における異文化

—— 他国の音楽教科書にみる日本の歌 ——

野々村 千恵子

## WORLD CULTURES IN MUSIC

—— A Study of Japanese Songs Introduced  
in School Textbooks in Foreign Countries ——

CHIEKO NONOMURA

### Summary

The present research regarding Japanese songs were selected from Foreign textbooks . What sort of songs were chosen ? How do these Textbooks introduce Japanese culture through these songs ?

### Contents

- ・ Melody, Rhythm and Words
- ・ Illustrations and Pictures of Japanese songs

Received Nov. 30 , 1995

Key words : World Culture, Japanese Song, School Textbooks

### はじめに

日本の歌はどんな曲がどのような形で諸外国の教科書にとりあげられているであろうか。1980年 ISME 14回・ワルシャワ大会<sup>1)</sup>に参加して以来この問題に感心をよせてきた。開催期間中は40数カ国の子どもたちの演奏を聞きながら、彼らは日本のどんな歌を知っているのだろうか、音楽の時間にはどんな歌を歌ったり聞いたりするのだろうかと考えていた。また、もし日本の子どたちがこの大会に参加し演奏するならばどんな曲を取り上げたのだろうか、などと思いをめぐらせていた。大会の帰途、交流のために立ち寄ったフィンランドで、「ほたる（わらべうた）」と「さくらさくら（日本古謡）」を歌う子どもたちの歌声を聴いた。そして、これら日本の曲を載せた音楽の教科書を贈られた。そんな縁が他国の教科書に興味をもち、この問題に取り組むきっかけとなった。

2番目の理由は日本の音楽教育のスタート時点の状況が関わっている。1979年「音楽取調掛」が設立され、日本の伝統文化と新しい外国の歌を結びつけることの試み<sup>2)</sup>以来、日本では外国の文化(歌)を内に取り込むことに熱心であって、その傾向は現在も引き継がれている<sup>3)</sup>。最初の教科書『小学唱歌集』(1881年)には、「見わたせば(むすんでひらいて)」「蝶々(ちょうちょう)」「蛍(蛍の光)」「霞か雲か」「あふげば尊とし」「才女(アニーローリー)」「菊(庭の千草)」があり、その7年後の『幼稚園唱歌集』には「蝶々(ちょうちょう)」「進め進め(すすめすすめ)」, 翌年の『明治唱歌』(1888年)には「故郷の空」「あはれの少女(故郷の人々)」「旅泊(燈台守)」がある。これら外国の歌の中には現在も教科書に掲載され、長く親しまれている。

現在の学校教育の場では、中学校の段階で異文化に対する取り組みを指導目標や内容に明記している<sup>4)</sup>。中学1年に「世界の民謡」、2年に「民族舞踊と民族楽器」、3年には「民族音楽のひろがり」と掲げ指導する。ところが日本の教科書に取り上げられた外国の歌が、実はもはや本国ではあまり歌われていないという状況があり、指導書にもこのことを付記している<sup>5)</sup>。ひとつのメロディーが国や地域の枠を越えて別の国の文化に同化したといえる。例えば先にあげた「蛍の光」などはメロディーは生かされているものの、日本ではもはやスコットランド民謡というより日本の送別の歌という意識が強いであろう。では逆に外国の場合はどうだろうか。日本の歌はどのようなきっかけで採用され親しまれているのだろうか。

3番目の理由は時代的関心によるものである。近年は世界的に人の交流が活発になり、異文化としての音楽にも強い関心がよせられている。ことに民族音楽に対しては、その存在や意味、その機能や音楽のもっている要素や背景などの考察、それらの人々と音楽のかかわりを考える研究が高まっている。異国の音楽への関心は近年にはじまったことではないが、1970年以降を《世界音楽の時代》と名づけた<sup>6)</sup>のはブルーノ・ネットルであった。

アメリカのシルバー・バーデット社は、1978年『MUSIC』というシリーズの教科書<sup>7)</sup>を出版していたが、1991年には『World of Music』シリーズに変えている。装丁はもちろんのこと写真や挿し絵をふんだんに使い、世界の民族的な音楽の理解に役立つよう配慮し工夫している。このような時代背景にたった現在、“日本の歌”について調べたいと考えた。歴史や社会の教科書では日本についての内容や記述の仕方が話題になり異議を申し入れるための機関もあるが、音楽に関してこのような報告はあまりされていない。

今までに収集したり閲覧してきた義務教育段階の教科書をもとに取り上げられた日本の歌について整理をした。世界の子どもたちに日本の音楽(歌)がどのように紹介されているか、外国の教科書に取り上げられた日本の歌唱教材についていくつかの問題点を探ってみたい。

### メロディー、リズム、歌詞から

教科書に取り上げられた日本の歌の楽譜をみると、資料とする教科書が十分とはいえないが、それでも一定の選曲基準が窺える。日本音階または四七抜き音階であること、遊びがと

もなった子どもの歌であること、日本および日本文化の理解に役立つもの、などである。義務教育段階の教科書に日本の歌をどのように紹介しているか、旋律・リズム・歌詞など音楽上の諸要素から問題点を整理した。

[さくら]

日本を代表する“日本の歌”はやはり「さくらさくら（日本古謡）」であろう。桜は日本の国花であり江戸時代にすでに箏曲の手ほどきの歌として知られていたもので、明治21年伊澤修二が『東京音楽学校編箏曲集』に取り入れて全国に広まったといわれている。日本音階によること、歌詞の内容が平易で翻訳しやすいこと、オペラ「蝶々夫人」第一幕結婚式の場に使われていること、さらに大正12年に邦楽器による日本最初の変奏曲として宮城道雄が創作した「さくら変奏曲」は海外でもよく知られた鑑賞用の補助教材があることなど多々あり、日本及び日本文化を紹介しやすい要素をもっている。

10年ほど前のことだが、日本から一番遠いブエノスアイレス市でタンゴの演奏を聴きに行ったクラブで、「ようこそ遠い国から」と歓迎してこの歌をタンゴに編曲して演奏してくれた。

今回調査した中では、フィンランド、アメリカ（3種）、カナダ、フィリピン（2種）の教科書に登場する。曲名はすべて「SAKURA」と日本名・ローマ字表記である。

歌詞は現地語の訳詞に日本語歌詞のローマ字表記がつけられている。ただし現在の日本の学校で教えている歌詞<sup>8)</sup>ではない。「～弥生の空は見渡すかぎり～いざやいざや～」である。マクミラン社『MUSIC and YOU 4』（アメリカ）は、オペレッタ「THE STONECUTTER」の挿入歌として「SAKURA」を使っているので英語訳詞がついていない。

『Word of Music 7』では“Sing and Celebrate”として2部合唱に編曲し、演奏会用に準備している。3コーラスあり、まず原曲どおりの日本語で、次は英語訳詞で、最後は前半が日本語、後半が英語と日本語の両語でコーラスするよう編曲されている。

曲の最後の部分は国によって旋律・歌詞とも異なっている。“見にゆかん”の/kan/を/ka/と/n/の二つに割ったものとそうでないもの、琴の演奏スタイルに近いメロディーで結んでいるものがある。

(1) フィンランド「SAKURA」『MUSIIKIN MAAILMA, Musica 5-6』

miet - tei - siin, puh - tai - siin, val - koi - siin. Tuu - li tuok - sun tuo.  
i - zu - ru. I - za - ya, i - za - ya. Mi - ni ju - ka - n.

(2) アメリカ「Sakura」『MUSIC and YOU 4』

I - za - ya, I - za - ya, Mi - ni - yu - kan.

(3) アメリカ「Sakura」『MUSIC 5』

*Sa - ku - ra, Sa - ku - ra, Let all come sing - ing.*  
*Sa - ku - ra, Sa - ku - ra, Let all come sing - ing.*  
*I - za - ya, i - za - ya Ni ni yu - han.*

(4) アメリカ「Sakura (Cherry Blossoms)」『Word of Music 7』2部合唱に編曲

*I za ya i za ya mi - i - ni yu - u ka n'. ah.*  
*I za ya mi ni yu ka n'. ah.*

(5) フィリピン「Sakura (Cherry Blossoms)」『MUSIC IN OUR SCHOOLS FOR GRADE 2』

「Sakura (Cherry Blossoms)」『LIVING WITH MUSIC 2』

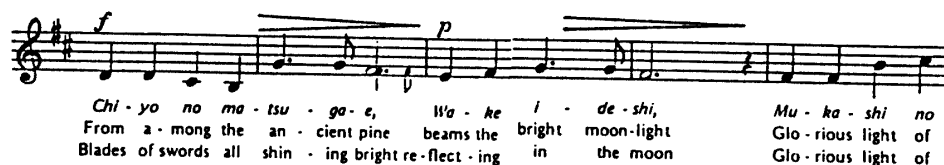
*I - ZU - RU I - ZA - YA I ZA - YA MI - NI - YU - KA - UN. YU - KA - UN.*  
*tell me why? Come, oh come, bird - ies sing, cher - ry blox - soms bloom in spring, bloom in spring.*

[荒城の月]

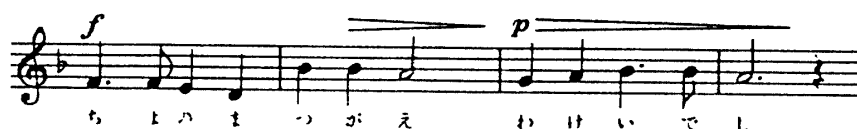
滝廉太郎の作曲の「荒城の月」は『MUSIC 5 (アメリカ)』と『Canada is ... Music 7 - 8』に掲載している。金田一春彦氏は「“荒城の月”は世界に知られた名曲で海外で有名であり、ドイツやイタリアのホテルやレストランで日本人の客と見ればサービスでレコードをかけてくれる」と『日本の唱歌 (上) 明治編』で紹介しているが、私もドイツで同じ体験をした。

歌詞は2番までの日本語ローマ字表記に訳詞がつき、タイトルは「MOON OVER THE RUINED CASTLE (Kojo no Tsuki)」である。カナダの教科書には漢字による縦書きの歌詞が横向きに載っていた。「横向きでも日本文字が載っていることは良い」と教科書研究センターの職員は高く評価していた。3フレーズ目の1・2小節「千代の松が枝～」の旋律は原曲を採り山田耕筰編曲によるリズムではない。拍子は4拍子である。

『MUSIC 5 (アメリカ)』と『Canada is … Music 7-8』



山田耕筰編曲



[あめふり]

アメリカ『Music and You 3』に「Japanese Rain Song」のタイトルで掲載，英語の訳詞と日本語のローマ字表記がついている。1番の歌詞だけである。3フレーズ目は雨降りの擬声語を映した表現を尊重したのだろうか，日本語歌詞だけである。北原白秋作詞，中山晋平作曲で「四七抜き音階」，スキップリズムが軽快である。親子の優しい愛情を歌いこんでいて情景も理解しやすいものだからとりあげられたのだろうか。なお，2フレーズ2小節目の最後の音がト音に変わっている。



[かごめ]

シンガポールでは2年生に「Poor Bird」のタイトルで，イギリスでも2年生に「Bird in a Cage-Kagome」，ともに「Japanese singing game」として掲載し，英語訳詞だけである。当然のことだが，シンガポールとイギリスでは訳詩が異っている。この歌はすでに江戸時代歌われていたわらべうた<sup>9)</sup>で全国に分布している遊び歌である。もとは“くぐり遊び”であったが，現在は“人当て遊び”になっている。両国とも“人当て遊び”で，イギリスの教科書には遊び方と解説がついている。同国には「The Muffin Man」と呼ばれるよく似た遊びもある。オランダの「めかくしパンやさん (De Mosselmann)」とメロディ・歌詞ともにほとんど同じと報告されている<sup>10)</sup>。ブラジルにも似た遊びがあり，シンガポールにもこんな遊びがあつて教科書に採用されたのであろう。シンガポールを〔資料1〕イギリスを〔資料2〕として末尾につけた。

## [かぞえ歌]

アメリカ『MUSIC 3』とカナダ『Canada is … Music 3-4』の教科書に同一曲名「NEW YEAR'S SONG KAZOE-UTA」で掲載されている。カナダの教科書には出典をアメリカのシルバー・バーデット社からと明記している。日本語ローマ字表記と英語訳詞が3番までついている。また、アメリカの教科書には下記のようなオステナート譜をつけ、簡単な合唱を楽しませる形で紹介している。〔資料3〕参照。

Can you play or sing this ostinato?



Use this pattern as an introduction, ostinato and coda.

## [ほたる]

フィンランドの教科書1・2年用に掲載、少しアレンジされている。日本の教科書などに紹介する旋律とは異なる。1フレーズと3フレーズで「Ho, ho, ho - ta - ru koi」と日本語で呼びかけ、中間部はフィンランド語で歌う。歌詞が5番まで作られ、1977年に著作権登録されている。2拍ずれたカノンで、日本語とフィンランド語の二重唱の形になる。現地で聴いた子どもの歌声は、カノンで呼びかける声がとても澄んだやさしい響きで、夜の川辺で淡い光を放つ蛍そっくりのイメージと感想をもった。〔資料4〕参照。

## [こんぴら船々]

フィンランドの5・6年用教科書に「KONPIRAN LAIVA KONPIRA HUNE HUNE」のタイトルで掲載、2小節遅れてカノン形式で歌うよう楽譜に指示が入っている。現地語の訳詞が3番まであり、日本語のローマ字表記も付いている。また、日本音階の説明と「鈴木メトード」にも使われている曲と注をつけている。この歌も「四七抜き音階」で、最後が終わった感じにならない曲なので、ハ音を加え、「Hai!」の語も加えて結んでいる。

江戸末期から明治初年にかけて金刀比羅宮に参詣することが流行り、大坂から海路を利用した。お座敷歌として琴平町を中心に全国的に広がり<sup>11)</sup>、日本には珍しい早口の歌である。



jäl - leen pa - la - taan, ja päi - vän mat - ka päät - ty näin.  
da - i - go - n - gen i - chi - do ma - wa - re - ba, hai!

## [茶つみ]

アメリカの『MUSIC 4』に「HARVESTING TEA」のタイトルで掲載、民謡の旋律を一部取り入れて作った文部省唱歌である。調性・拍子ともに原曲どおりであるが、弱起の形にしたところと全フレーズのリズムを統一させたところに洋楽的な処置を感じる。「四七抜き音階」でフレーズ頭と尾に休符が入り、ここが“トン・トン”と合いの手になる。一時代前の

音楽における異文化

女の子の遊びで、お手玉やおはじきなどといった小道具がないときはこんな「お手合せ歌」をしてよく遊んだ。

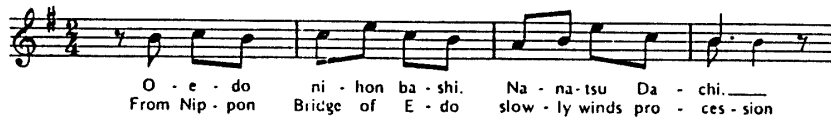


文部省唱歌



〔お江戸日本橋〕

『Canada is … Music 3-4』に「KOCHAE BUSHI」として掲載されている。東京地方民謡であり、日本音階陰旋法である。上段に日本語ローマ字表記の歌詞，下段に英語訳詞がついている。〔資料5〕参照。



〔炭坑節〕

『Canada is … Music 5-6』に「COAL MINERS' SONG」のタイトルで3番までの英語訳詞が付いている。驚くことに日本語の「炭坑節」の振り付け（和服姿で踊りの説明図）がついている。前奏はフルートまたはリコーダーで演奏するよう指示がある。民謡のこと，労働歌のこと，ダンスのこと，そしてクラスにもし日本人の友だちをもっている人がいるか，など教師にたずねさせる，などの指導内容である。

日本のダンスとして盆踊りがよく海外へ紹介される。カナダでもフェスティバルなどがあって，誰かが「炭坑節」を教え踊ったのであろうか。

〔はとぼっぼ〕

アメリカの『Word of Music 2』に日本の小品（A BIT OF JAPAN）として「Hato Popo」のタイトルででてくる。上段が英語訳詞，下段が日本語歌詞ローマ字表記である。文部省唱歌は四分の二拍子・12小節の曲だが，四分の四拍子・6小節の曲に直されている。2小節目の音も“ソミレードー”と変わっている。簡単な子どもの歌として掲載されたのであろう。〔資料6〕参照。

## 挿し絵と写真から

日本や日本文化理解に役立つようつけられた写真や挿し絵を眺めていると、それぞれ国での取り扱い方が見えてくる。『MUSIC and YOU 8』の第1課・1頁には「Expioring Musical Styles」として琴を演奏する日本人髪女性の写真、『Word of Music 6』には「Music for Living」として、やはり琴を演奏する日本髪姿が描かれている。「さくら」の場合、アメリカの『Music 5』とカナダの本には和服で琴のおけいこをする女性の写真である。さくらの花を描いた挿し絵は、合唱曲に編曲した『Word of Music 7』と『MUSIC and YOU 4』の「石切りうた」とフィリピンの教科書であるが、桜にはあまり似ていない。また花見をしている人物の衣装は平安時代の貴族のスタイルである。フィンランドの本には、梅の古木の写真を掲載している。国別にこれらの状況を整理した。

**フィンランドの場合** 各学年の教科書に「ほたる」「こんぴら船々」「さくら」と1曲ずつ採用し日本から遠く離れているだけに、手持ちの情報は少なく、日本人の協力があつたと推定される。とくに「さくら」の歌の結びの語句“miniyukan”の/kan/を/ka/と/n/に割ったあたり、自国にない日本語の音(オン)をうつすのであるからレコードなどから拾うのもかなり難しいと思われる。

「さくら」の歌に梅の写真とか、「ほたる」に京都御所前で七五三のお祝いでおめかしした子どもの写真、「こんぴら船々」には日本の人形(笛を吹く牛若丸のような人形)写真など、歌の内容に関係ないものだが、日本を表す資料を探し求めた様子がにじみでている。

**カナダの場合** 歌の母語の文字をそのまま載せて紹介をしている。「荒城の月」に土井晩翠の日本語の縦書きの詩、「炭坑節」に日本語の絵と文字による振り付けがある。また、「数え歌」には、挿し絵として歌の右ページに祭りで神輿をかついでいる写真がある。「にぎやかな情況」を映しているにはちがいないが、新年と祭りではやはり異質である。〔資料3〕参照。

「KOCHAE BUSHI (お江戸日本橋)」には広重の東海道五十三次「日本橋」の版画が挿し絵に使われている。〔資料5〕参照。

この教科書シリーズをとおしてみられる特徴は日本の歌を“月”でまとめていることだろう。芭蕉の俳句を紹介しているページがある。湖面の写真の左に「名月や 池をめぐりて 夜もすがら」「古池や 蛙とびこむ 水の音」の英訳した2句が載っている。その左頁には右頁と対象的な都会のネオンが輝いている夜景の写真があり、そのネオンのひとつが「らん月」という文字である。〔資料8〕参照。指導書を見ていないが、日本文化の紹介の柱として月を取り上げていると思われる。

「荒城の月」の歌詞の文字が横に寝た形で掲載されていることについて、4年ほど前になるがカナダ在住の友人(日本人移住者)に尋ねた。彼女は驚いていたが、「たぶん気付いていたでしょうね、でも直せないのでしょうか」と感想を述べた。第二次大戦で、カナダ移住者は



日本人であることを否定せねばならない時期があった。そのために日本に関する誤記を指摘できないで現在にいたっているのではないかと推測される。意外にも大きな問題にぶつかり、考えさせられた一面である。〔資料7〕参照。

**アメリカの場合** 日本との交流は政治的にも歴史的にもかなり深いので、入手した多くの情報を基に日本の歌を紹介しているといえる。扉の次頁には写真で邦楽の色々な演奏スタイルを紹介している。日本の太鼓や琴の演奏などはアメリカ現地の実際の演奏写真であり、鑑賞曲としてのオペラ「蝶々夫人」の公演写真もある。日本国内での演奏写真は「三曳そう」を紹介して三味線・尺八の演奏、及び“唄い”の場面のほか日本人の暮らしぶりを伝える神社および、仁王の顔、豪雪で雪降ろしの様子を写したものなど、シルバー・バーデット & ジン社の『World of MUSIC』では豊富である。しかし、「はとぼっぼ」の挿し絵は鳩に豆をやるため飯台の前に座った日本髪的女性はすこぶる戯画化された姿である。日本語のローマ字表記は当然のことであろうが英語的で日本語に忠実ではない。〔資料6〕参照。

なおオペレッタ「THE STONECUTTER」の挿入歌には、花見の人物が平安時代の貴族の装束で描かれている。〔資料9〕参照。

**フィリピンの場合** 豊橋市中央図書館が所蔵する司文庫の資料によると「とんび（葛原しげる詞・梁田貞曲）」と「富士の山（ノーエ節）」がある。司文庫の成立上、国に偏りがあり資料としても古いものであるが、掲載事情が推測できる。「とんび」には英語訳詞が2番まであり、リコーダーとグロックンシュピールの演奏指示がついている。

「富士の山（ノーエ節）」は「SONGS OF SNOWY MT. FUJI」のタイトルで、歌唱教材である。歌詞は日本語のローマ字表記だけである。挿し絵は冠雪した富士山とその前に大鳥居を描いていた。資料が乏しいので、再度、教科書研究センターの蔵書<sup>12)</sup>を後日調べたいと考えている。

## おわりに

歌（音楽）は人間の諸行動の所産として生まれた文化である。気候や風土などの自然条件の中で、言語や宗教および民族などさまざまな環境の中で生まれ育まれてきたものである。一つの集団の中で共有される考え方や感じ方は千差万別であり、その文化としての音楽もきわめて多様である。その音楽はそれぞれに固有のものであり、そこで育まれた生活様式や行動様式に深く関わって伝承されてきただけに、豊かなものでもあり、これらの音や音楽に出会うことは非常に興味深いことである。現代社会のキーワードともいえる国際化は音楽教育でも求められている。1992年、ISMEではテーマ「世界のさまざまな音楽の共有をめざして」をかかげ、いっそうの広い視野を求めている。

しかし、音楽の授業そのものが日本のように独立して行われていない国や地域がある。宗教の時間に組み込んでいる場合や社会教育で音楽指導を行っている国もある。そのため本考

察で取りあげた国が偏っている傾向もある。だが、ここ数年渡伯を重ねて見えてきたことは日本からの文化の発進の少なさである。ブラジルは遠国ではあるが、今年日伯修好百年を迎えた。移民で成り立っている国というブラジルの事情があるとはいえ、母国から発進されポルトガル語に直された各国の文化紹介本は非常に多い。日本と東南アジア諸国の交流歴史はもっと長い時間が経過しているが、日本や日本文化を伝えるの資料は非常にすくない。

人の交流が世界的に進み、生産物も相互の国を行き交っている割には日本の文化面の交流の層が薄いと感じた。訪問した都市の街中で日本製の車や電機製品をよく見かけるが、その根幹となった文化的資料が少なく、アンバランスを感じてしまう。ヨーロッパでの邦人活躍によるニュースなどを耳にするようにはなったが、今後は諸外国に向けて活字による日本文化の発進が大切であり必要なことだと再確認させられた。

## 注

- 1 ISME (International Society for Music Education) 14回ワルシャワ大会1980年7月6日～12日  
各国の子どもたちによる演奏は14時半～16時と20時半～22時半の1日2回、その他に11時～13時半のワークショップや研究発表としての公開レッスンなどでも聴かれる。  
日本の子どもは開催時期が夏休み前であること、遠隔地などの理由でこの大会には不参加。
- 2 伊沢修二らは音楽教育の一方針として“東西二様ノ音楽ヲ折衷シテ新曲ヲ作ル事《音楽取調二付見込書》”をあげた。西洋の曲に日本語の歌詞をつけたものを考えていた。
- 3 平成2年度から2年間、文部省科学研究で助成を受けた研究計画「明治から昭和にわたる唱歌集の語彙分析に関する調査研究」。
- 4 “指導目標”第1学年「多様な音楽に興味や関心をもたせるとともに、幅広い鑑賞の能力を養う」、第2学年及び第3学年「多様な音楽の学習を通して、音楽活動の喜びや共通の感動を体験させるとともに～」とし、“多様な音楽”とは「我が国及び諸外国の音楽について、時代、地域、種類、表現など、さまざまな視点から、多様なものがあることを示すものである」と解説。
- 5 江波戸昭氏解説『改訂中学生の音楽1教師用指導書』音楽之友社1990年 201頁  
「興味深いことに、本国でほとんど歌われていないものが日本や世界の各地で広く歌われているのがみられる。スイスの“おおブレネリ”やチェコスロバキアの“おお牧場は緑”などがその典型で地元ではまったく有名でない。スペインの“追憶”に至っては地元の民謡集でもみることができない。」
- 6 ブルーノ・ネットル著 細川周平訳 『世界音楽の時代』勁草書房 1990年 33頁  
「自由な理論的体系が、20世紀の西洋芸術音楽で展開された様式から派生し、ジャズや土着の音楽に対する関心が広く認められた」、「一部族は開発の遅れたしばしば貧困にあえぐ第三世界の諸国家に変化…中略…エキゾチックな人々とその文化の目立った特徴は原始的な孤立ではなく、西洋の価値やテクノロジーと伍している」とその概念を述べている。
- 7 高萩保治著「地域研究としての各国の音楽教育 アメリカ」『音楽教育の国際化』音楽之友社1995年 50頁「この時期のアメリカの教科書はブルーナーの理論に影響されて、〈動き〉または〈身体的反応〉を独立させて強調」
- 8 「～野山も里も見渡すかぎり 霞か雲か朝日に匂う」昭和16年『うたのほん(下)』での改訂。
- 9 江戸時代後期(1820年頃)、僧行智が編集した『童謡集』に「子をとり子とり」「れんげれんげ」「ねんね

## 音楽における異文化

んねんねこよ」「お月様いくつ」「うさぎ」などといっしょに掲載。

- 10 後藤田純生著「めかくしパンやさん」の解説 『世界の遊び歌 40』音楽之友社 1981年 34頁
- 11 町田嘉章・浅野健二編『岩波クラシックス38 日本民謡集』岩波書店 1983年 312頁
- 12 同センターは近年フィリピンの文部省と教科書相互交換の提携を結んだ。

## 資料としての教科書

- FINLAND Egil Cederlof 他 『PIIRI PIENI PYORII Musica 1 - 2』MUSIIKKI FAZER (Helsinki) 1979  
Sointu Annala 他 『TIE MUSIIKKIIN Musica 3 - 4』MUSIIKKI FAZER (Helsinki) 1979  
Sointu Annala 他 『MUSIIKIN MAAILMA Musica 5 - 6』MUSIIKKI FAZER (Helsinki) 1980
- CANADA 1Dulcie Colby 他 『Canada is ... Music 1 - 2』THOMPSON 1982  
Jan Goodman 他 『Canada is ... Music 3 - 4』THOMPSON 1982  
Dulcie Colby 他 『Canada is ... Music 5 - 6』THOMPSON 1982  
Jan Goodman 他 『Canada is ... Music 7 - 8』THOMPSON 1983
- AMERICAN 1 ELIZABETH CROOK 他 『MUSIC 1』『同2』『同3』『同4』『同5』『同6』SILVER BURDETT 1978  
2 Barbara Staton 他 『MUSIC and YOU 1』『同2』『同3』『同4』『同5』『同6』『同7』『同8』  
MACMILAN 1991  
3 Mary Palmer 他 『World of MUSIC 1』『同2』『同3』『同4』『同5』『同6』『同7』『同8』Silver Burdett &  
Ginn 1991
- ENGLAND 1 Michael Stocks 他 『GROWING WITH MUSIC 1』『同2』『同3』『同4』LONGMAN 1992  
2 Jean Gilbert 他 『Oxford Primary Music Songbook 1』『同2』Oxford University Press 1992
- PHILIPPINE 1 M. del Rosario 『MUSIC IN OUR SCHOOLS FOR GRADE 2』PHILIPPINE BOOK COMPANY 1976  
2 M. del Rosario 『LIVING WITH MUSIC FOR GRANDE VII』PHILIPPINE BOOK COMPANY 1976
- Singapore 1 『MENAYANYI DAN BERGEMBIR 欧楽的歌唱・上冊 SING AND ENJOY 1』教育出版社 1976

## 参 考 文 献

- 柘植元一著『世界音楽への招待』音楽之友社 1991年  
ブルーノ・ネトル著 細川周平訳『世界音楽の時代』勁草書房 1989年  
藤井知昭講師『NHK 市民大学 音楽の人類学』日本放送出版協会 1984年  
文部省『小学校指導書 音楽編』1989年  
文部省『中学校指導書 音楽編』1989年  
文部省『高等学校芸術科指導資料 指導計画の作成と学習指導の工夫』1992年  
教師用指導書『改訂中学生の音楽1』『同2』『同3』音楽之友社 1990年  
財団法人教科書研究センター編『教科書作成のしおり』1990年  
坂本明 研究報告 No. 41「文部省唱歌の成立と変遷—国民教育の視点から—」財団法人中央教育研究所 1992年  
高萩保治著『音楽教育の国際化』音楽之友社 1995年

野々村 千恵子

[資料1] シンガポール

### Poor Bird

Japanese Singing Game

Poor bird, you are so sad, sit-ting in your bam-boo cage.  
Will you sing a song for-me, If I come and set you free?  
All to-go-ther, now fall down. Who's be-hind you? Can you guess.

The illustration shows a boy in a dark shirt and shorts holding a birdcage. A bird is visible inside the cage. In the background, there are stylized clouds and a large, dark, rounded shape on the ground.

[資料2] イギリス

### Bird in a cage — Kagome

Japanese singing game English version by Janet E Tobitt

Not too fast

Ka - go - me, Ka - go - me, Poor bird in a bam - boo cage,  
What time do they set you - free? Mid - night or at dawn of day?  
Crane and tor - toise all fall down, Who's be - hind you? Can you say?



[資料5] アメリカ

D e - do ni - hon he - shi, Na - na - na Da - chi.  
From the - son bridge of E - do, slow - ly winds pro - ce - sion

Na - tu - no - hi, Gi - ra - nu - no - to - o - bi, Are wa - i - no - sa!  
At the break of day, Long lines of peo - ple coming, from all sides they come

Ko - chu, Ta - ka - na - wa yo - i - ke no, Chi  
marching, Lamps go out at Ta - ka - na - wa when the

chi - ka - na, Ko - chu - ji, Ko - chu - ji  
sun set - ting, Ko - chu - ji, Ko - chu - ji

As you listen, pick out the two Lullabyes who are consists of happy sounds with no words, but the first line other songs have had, so, be recording?

**DANCE TOGETHER**

1. Dance to the rhythm of the  
2. Dance to the rhythm of the  
3. Dance to the rhythm of the

Four stars, for a word, that shines to  
Keep a heart that beats to the drum

[資料6] アメリカ

**A BIT OF JAPAN**

**Hato Popo**

Folk Song from Japan English Words by Jeffrey Yamashita

Pl - geons come, come to find seed,  
Po - po - po!  
Ha - ta po - po!

So I will spread the grains of mil - let for their feed.  
Ma - me ga ho - shi - i - ha! So - ra ya - ru - zo!

Come, love - ly pl - geons, take the mil - let for your feed.  
Ma - me de - na - an - ya - ku! Za - be - ni - ho - i!

[資料7] カナダ

128

**MOON OVER THE RUINED CASTLE (Kojō no Tsuki)**

Elegiac  $\text{♩} = 72$

He - ru ki - no - to, He - ru ki - no - to  
An - cest' can - ce - lling, for the sake of  
In the su - sunn camp, the sun - set - ting

Mo - ri no, Mo - ri no, Mo - ri no, Mo - ri no  
From the top of the hill, the sun - set - ting  
Hark! the sun - set - ting, the sun - set - ting

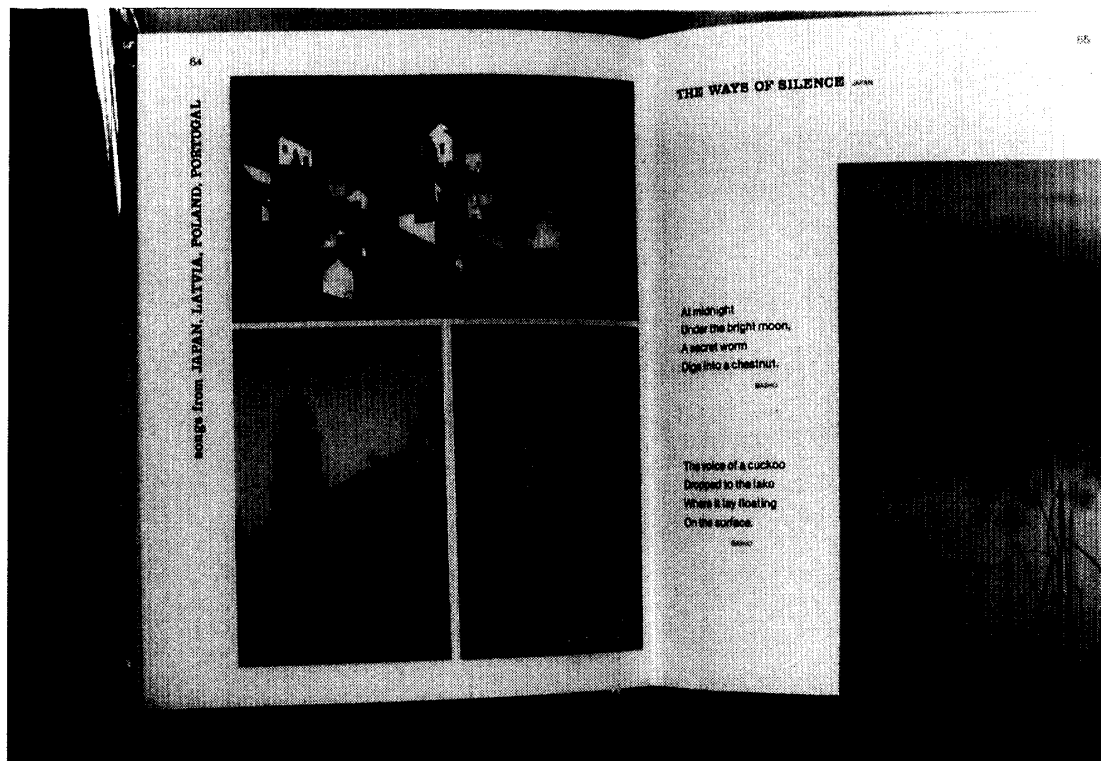
Chi - yo no mi - yo, Chi - yo no mi - yo  
From a - mong the an - cest' pines, the sun - set - ting  
Waves of words, all - the - day, the sun - set - ting

I - do - do, I - do - do, I - do - do, I - do - do  
Bright moonlight, the moonlight, the moonlight  
In the moon, the moon, the moon

As you will be in your hearts, you will be in your hearts  
Over the trees, cherry trees, give me the promise, the promise  
The Cherry Blossom Festival, together, together, together  
On this day, the sun - set - ting, the sun - set - ting  
and the Praline Art!

音楽における異文化

[資料8] カナダ



[資料9] アメリカ

